

議案第4号

倉敷市指定重要文化財の諮問について

このことについて、次のとおり議決を求める。

令和3年1月21日提出

倉敷市教育委員会

教育長 井 上 正 義

指定を諮問する文化財

- | | | |
|---|-------------------|---|
| 1 | 名 称 | 円通寺本堂 |
| 2 | 種 類 | 建造物 |
| 3 | 員 数 | 1 棟 |
| 4 | 所 在 の 場 所 | 倉敷市玉島柏島451 |
| 5 | 所有者の氏名 | 宗教法人 円通寺 代表役員 仁保哲明 |
| | 及び住所 | 倉敷市玉島柏島451 |
| 6 | 構 造 形 式 | 桁行17.0m 梁間11.0m
寄棟造 茅葺 向背一間 本瓦葺 |
| 7 | 建 築 の 年 代
又は時代 | 江戸時代中期 |
| 8 | 指 定 の 理 由 | <p>円通寺本堂は、禅宗方丈平面の基本形である広縁6室型を良く残しており、本瓦葺きの箱棟を乗せた背の高い伸びやかな茅葺き寄せ棟屋根の外観をもつ。向拝と仏間の軒周りの組物や梁などの彫刻は、簡素ではあるが寺院建築本来の力強さを感じさせるものであり、江戸時代中期頃の曹洞宗寺院の特徴をよく残している。</p> <p>建築年代も倉敷市における寺院としては古いものであり、建築当初の形を良好な状態で保っていることから、倉敷市の重要文化財に指定して長く保存していくべき建築物であると考える。</p> |

円通寺本堂に関する調書

倉敷市文化財保護審議会委員

澁谷俊彦

1. 序

円通寺は天平時代の僧行基の開創と伝えられ、これを元禄年間（17世紀末）に良高和尚が再興した曹洞宗の寺院である。

地理的には玉島港を眼下に望む柏島の丘陵中腹に位置しており、その優れた自然地形と立地から、境内地とその背後の丘陵一帯が岡山県の名勝に指定されている。また、江戸時代後期の僧侶で歌人・書家でもある良寛が、青春時代に十数年間厳しい修行を積んだ寺としても有名である。

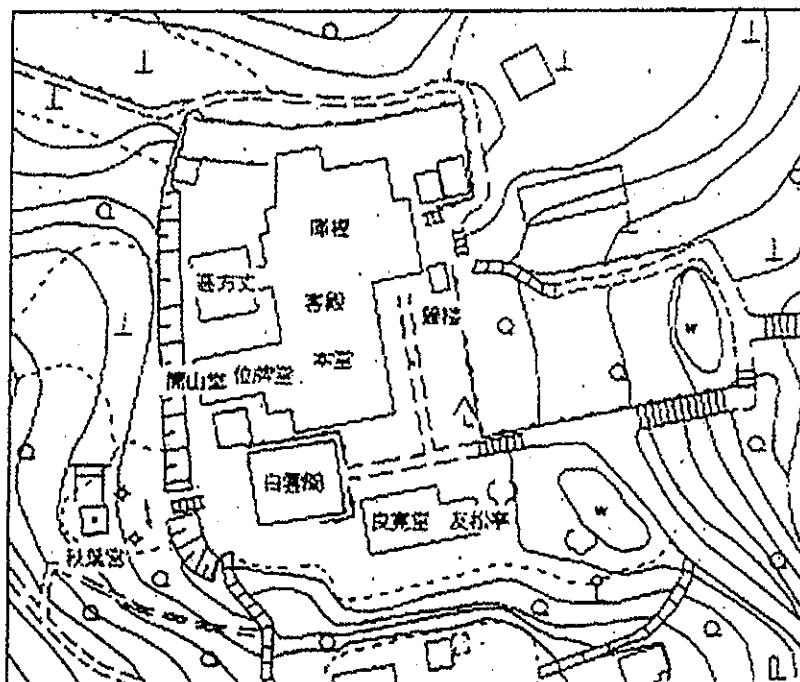
2. 建築物の配置

円通寺は柏島の丘陵東側斜面に位置し、南北に長い敷地に建築物が配置されている。境内のほぼ中央には、正面を東に向けて南北棟の寄せ棟茅葺きの本堂が建つ。本堂西側の一段高い敷地には開山堂が建ち、位牌堂で本堂と結ばれている。両堂とも幅は同じで、屋根も東西棟の本瓦葺きである。

本堂の北に接して南北棟本瓦葺きの客殿が続く。東向きの玄関を持つ。さらにその北側に接して東西棟本瓦葺きの庫裡が建つ。庫裡の西側には、庭園の中に南北棟入母屋瓦葺きの高方丈が建ち、渡り廊下で庫裡と結ばれている。また、庫裡の南東には鐘楼がある。

本堂の南側には軒を離して方形瓦葺きの白雲閣があり、この南東側には茅葺きの良寛堂・方形瓦葺きの友松亭が建つ。白雲閣の西側の一段上がった場所には秋葉宮がある。

このように円通寺境内は、丘陵地の地形に応じて近世以降順次整備された建築物群が残る所である。



円通寺配置図

3. 本堂平面

本堂は桁行き八間半（17.0m）梁間五間半（11.0m）の規模である。平面形式は禅宗方丈の六間取りで、東側と南側に幅一間の広縁が付く。前列（東側）に3部屋、後列（西側）に3部屋が並ぶ。前列3室は法を説き経を講ずるいわゆる法堂で、中央が15畳の部屋（室中）、その北側は12畳半、南側は10畳の部屋である。その奥、後列中央が15畳の部屋（仏間）で、来迎壁の前に本尊を安置する須弥壇が置かれている。中央前後の2部屋は南北方向においては一間おきに柱が立つ。後列中央の仏間は、東西方向においても一間おきに柱が立つ。

前列南側は10畳の部屋、前列北側は12畳半の部屋である。後列南側は8畳の部屋で一間の床が付く。後列北側は8畳の部屋で、正面左に一間の床が付く。

仏間は左右の間に対して半間西側に張り出しているが、これは後に位牌堂と接続された際に拡張されたものと思われる。また、仏間の左右の間にある床の間も、後世の改築によるものである。

4. 本堂室内

①前列中央15畳の部屋（室中）

天井は高い竿縁天井である。西側にある仏間との間は、須弥壇が前方からよく見えるように中央の柱間部分上部は曲線を描いて高く繰り上がっている。左右の柱間の上部には木瓜型の木杵に入った絵が付く。

正面向拝内側の広縁との間にある虹梁には若葉が付く。若葉本来の形状である。柱間装置は取り外されている。床は畳敷きである。

②後列中央15畳の部屋（仏間）

天井は高い竿縁天井である。竿は太い。須弥壇の両脇の柱は円柱で柱頭に粽が付く。木鼻・虹梁は彫刻が施されている。虹梁には若葉が付く。虹梁中央上部には藁又が乗る。透かし彫りがある。肘木は禅宗様である。実肘木の先端には彫りがある。床は拭い板張り。

③前列南側10畳の部屋

天井は竿縁天井である。床は畳敷き。

④前列北側12畳半の部屋

玄関から本堂に入って初めての部屋である。床は畳敷き。

⑤後列南側8畳の部屋

大玄関からは一番奥まった部屋である。天井は竿縁天井である。正面中央に一間の床の間。左右半間は壁に花頭窓が付くがこの部分は時代が新しい近年のものである。床は畳敷き。

⑥後列北側8畳の部屋

正面左一間が床、右一間は開口部で柱間装置は明かり障子である。現在は8畳の間であるが、本来は書院の床の間を含めた10畳の広さであったと思われる。床は畳敷き。

⑦広縁

天井は竿縁天井であるが、正面中央部向拝の内側にあたる、幅一間分のみ折り上げ天井になっていて、寺号額を掲げる天井高を確保している。室内からも船肘木が見える。床は畳敷き。

5. 本堂外観

本堂の屋根は正面を東に向けた南北棟の寄せ棟茅葺きで、瓦葺きの箱棟を乗せる。屋根は11寸の急勾配（屋根高9.27m・軒高4.53m）で、反りもむくりも無く真っ直ぐ葺き下ろすが、先端部分がわずかに反っている。正面中央部の軒は、幅二間分をわずかに切り上げ、本瓦葺きの向拝の屋根が付く。西側には位牌堂、北側には客殿の本瓦葺きの屋根が接続する。

軒部は疎垂木、組み物は船肘木。彫刻木鼻は無く、いたってシンプルな構成である。

東面・南面ともに壁がなく、柱間装置として引き違いのガラス戸と雨戸・網戸が入るが、大きく外観が変更されたと感じさせない状態である。南面に付く濡れ縁は、近年白雲関へ渡るために設置された仮設のものである。本堂脚部の柱は低い礎石の上に立ち、周囲の地表には地覆石が張られている。

正面中央部に付く向拝の柱は几帳面取方柱で、礎盤の上に立つ。向拝柱上の組物は大斗の上に肘木唐様（禪宗様）を乗せ、その上に内側に巻斗1つ、外側に巻斗2つを乗せ、その上に実肘木を乗せる。実肘木の先端の彫りも木鼻と揃った落ち着いたものである。前後には升が乗る。

向拝虹梁には若葉と錫杖彫が付く。若葉は若葉本来の形状で、木鼻は彫刻木鼻になる前の木鼻本来の形状を残す。向拝虹梁の中央上部には墓又が置かれ、その上部に升と実肘木が置かれる。墓又の脚部は力強く、又の間には卍を置く。海老虹梁は水平に近い緩やかな勾配で、手挟みは版状で繰りが付く。向拝部分の垂木は、軒から向拝へかけて緩やかなS字状の曲線を描きながら一材で連続している。

6. 建築の年代

円通寺本堂の建築年代については、現在までのところそれを示す棟札や古文書等が見つかっておらず、詳しいことは不明である。寺伝によると、元禄11年（1698）に補陀落山円通庵として開山され、正徳4年（1714）に円通庵から円通寺に改められた後に本堂を建築したとされている。また、安永8年（1779）年に、既に存在した本堂・庫裏に接続する形で高方丈が建築されたことなどを考慮すると、正徳4年から安永8年の間に建築されたと推測されるが、ここでは平面形式や建物細部の特徴などからその妥当性について考えてみたい。

まず、円通寺本堂の平面は、2列3室の6部屋に広縁が付く広縁6室型と呼ばれる形式で、曹洞宗の本堂としては江戸時代前期（17世紀代前半）に成立した基本形の一つである。その後江戸時代後期（18世紀後半以降）になると、室中と両脇2室を一連のものとして大空間を造り出すものや、豪華絢爛さを求めて仏間と室中に大虹梁を渡すも

のなどが現れ、全国で普及したとされる。円通寺本堂にはこうした大虹梁は見られず、平面形式も基本形である2列3室を維持している。

また、向拝及び須弥壇周辺の木鼻・虹梁・墓股の彫刻はシンプルで力強いものであり、装飾化が著しくなる江戸時代後期の傾向は見られない。

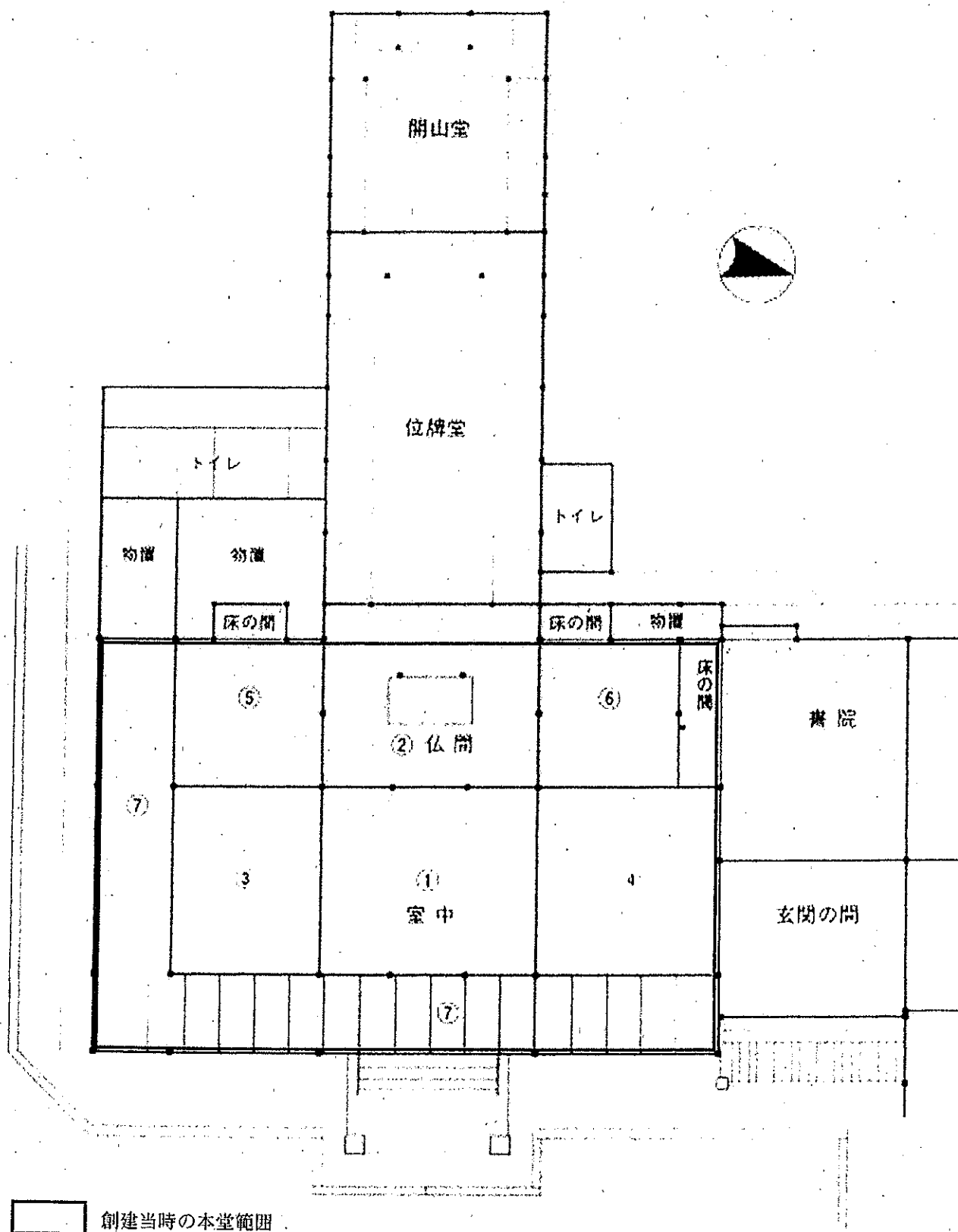
以上のように、円通寺本堂には江戸時代後期以降の曹洞宗寺院本堂に見られる典型的な特徴は確認できないことから、寺伝から推定される18世紀半ば前後をその建築時期と考えて差し支えないと思われる。

7. 結論

円通寺は、江戸時代からの瀬戸内の主要な港の一つである玉島港を見下ろす柏島中腹近くに建つ名刹であり、周辺一帯は円通寺公園として岡山県の名勝に指定されている。

本堂は禅宗方丈平面の基本形である広縁6室型を良く残しており、本瓦葺きの箱棟を乗せた、背の高い伸びやかな茅葺き寄せ棟屋根の外観をもつ。向拝と仏間の軒周りの組物や梁などの彫刻は、簡素ではあるが寺院建築本来の力強さを感じさせるものであり、江戸時代中期頃の曹洞宗寺院の特徴をよく残している。

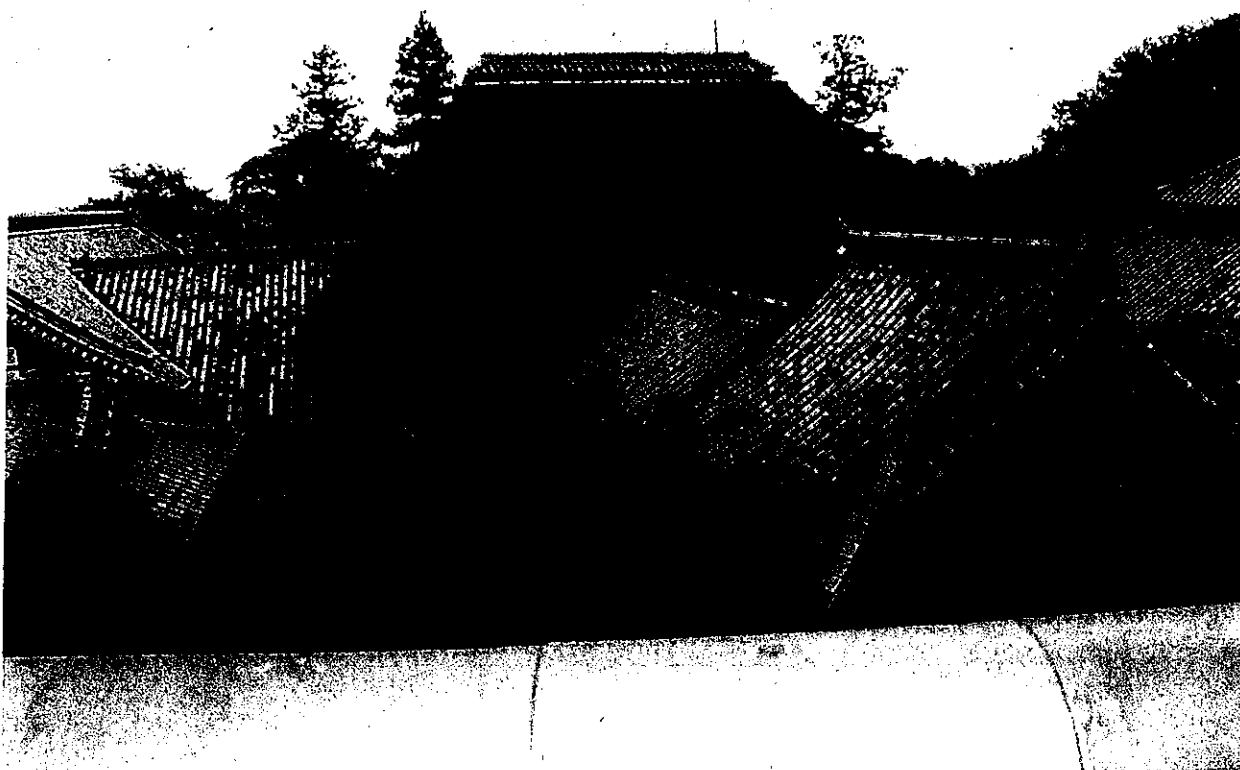
建築年代も倉敷市における寺院としては古いものであり、建築当初の形を良好な状態で保っていることから、倉敷市の重要文化財に指定して長く保存していくべき建築物であると考えらる。



円通寺本堂平面図



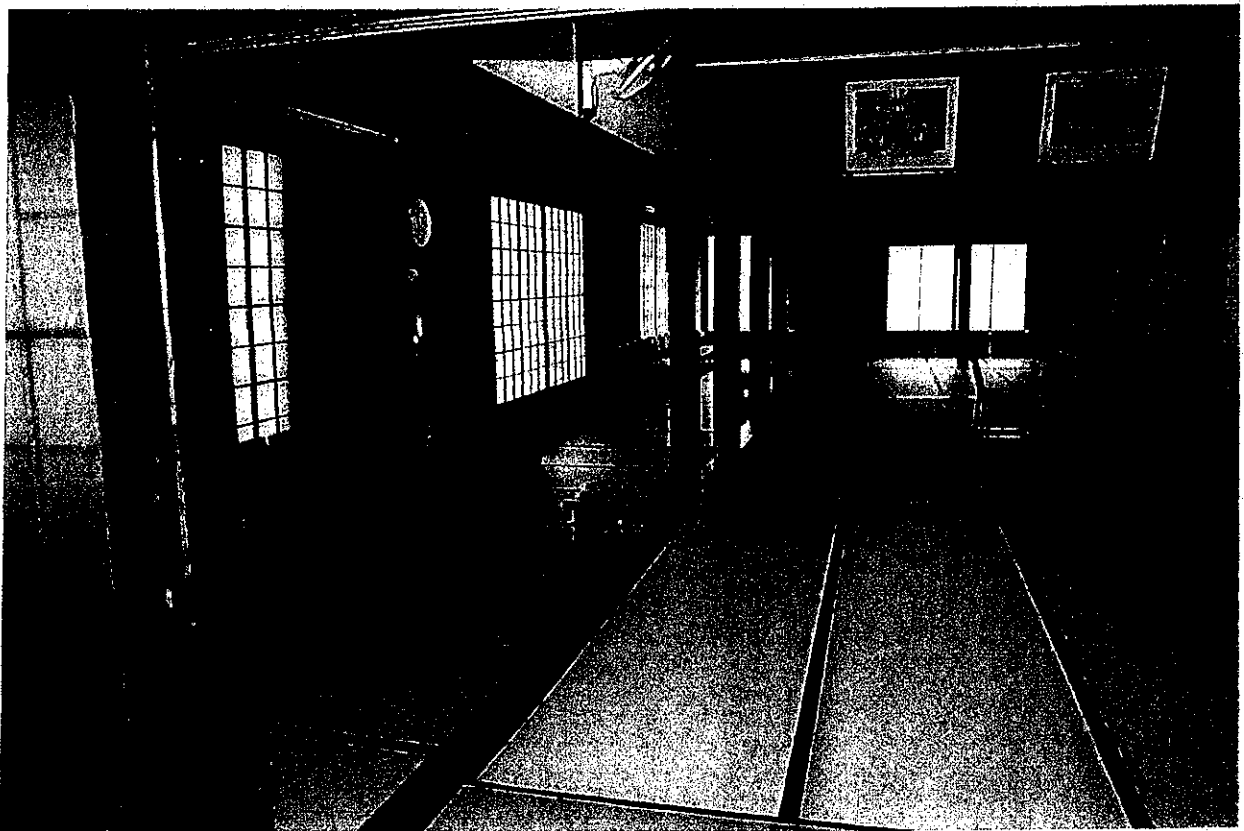
外観（南東より）



外観（西より）



本堂内部 中央が仏間（東北より）



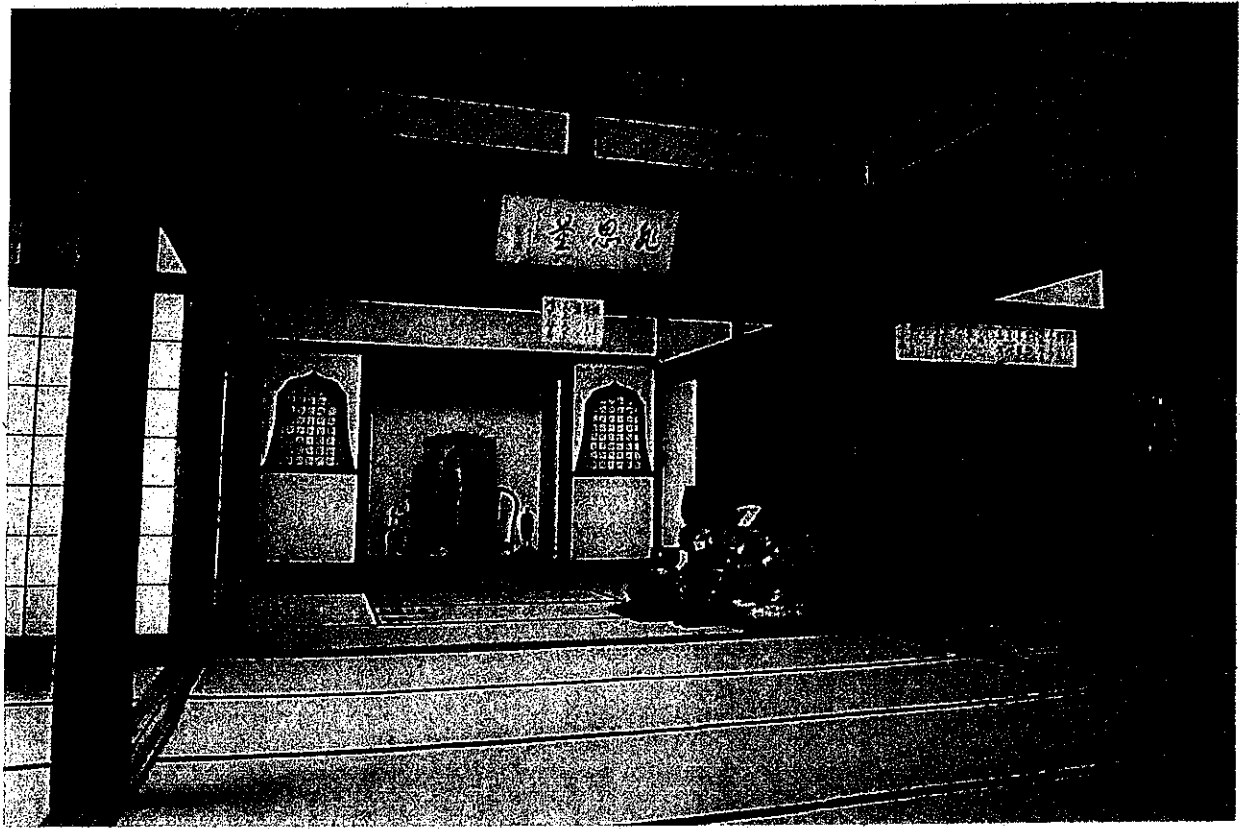
本堂内部 前列3室（北より）



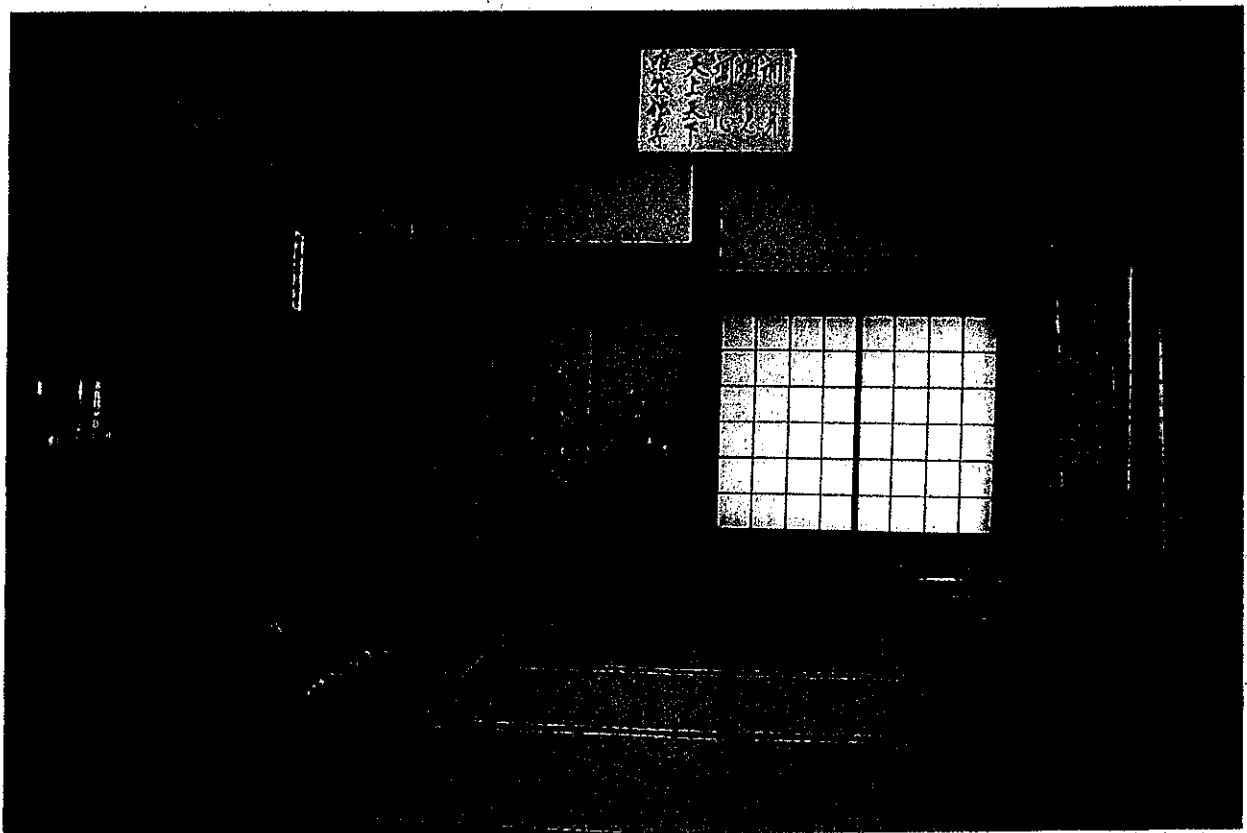
本堂内部 正面が仏間（東より）



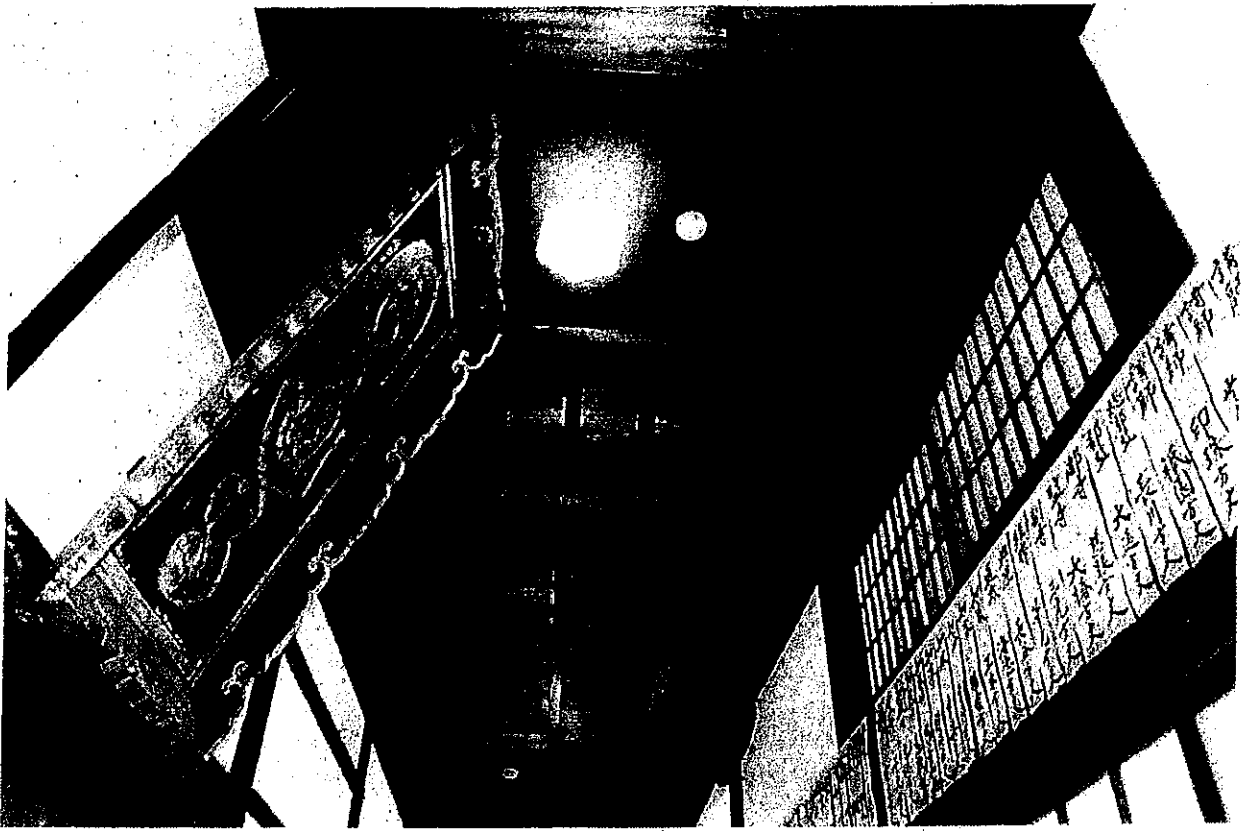
仏間 須弥壇の上部（南東より）



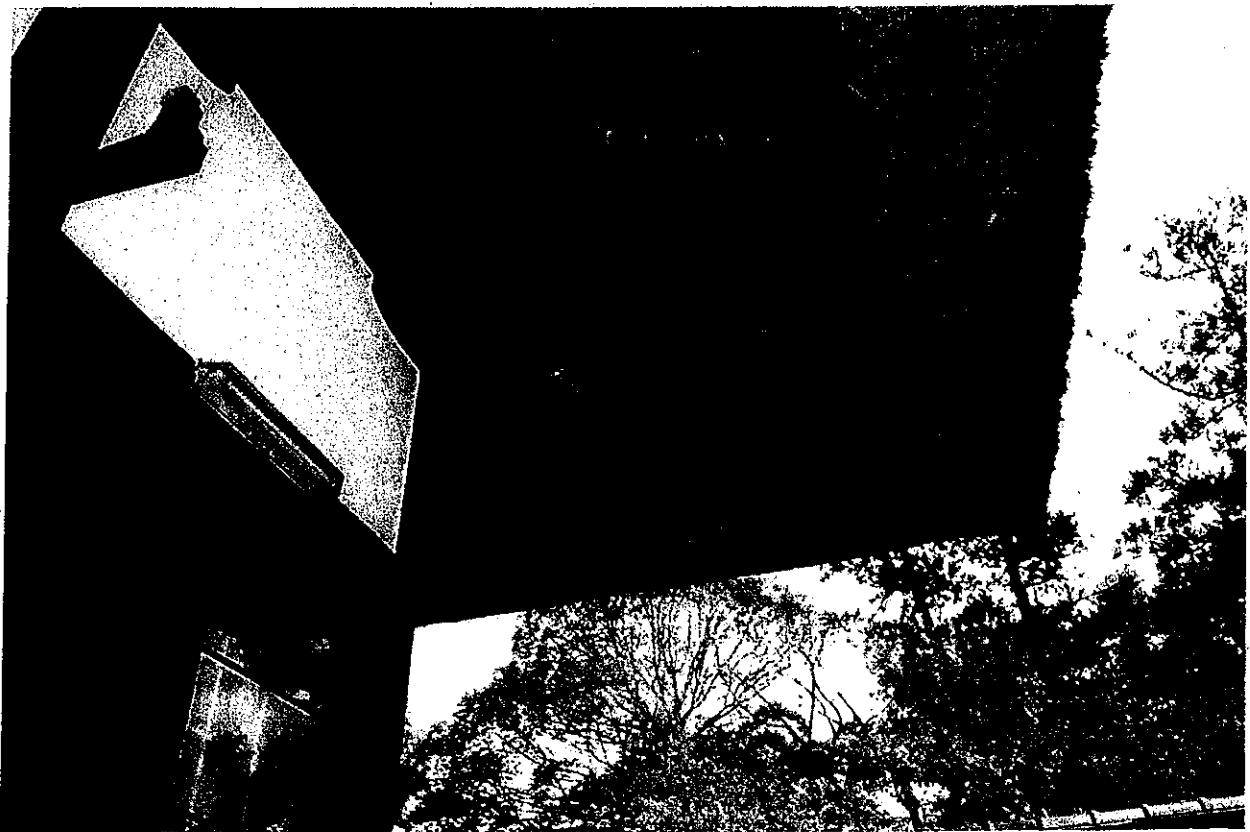
本堂内部 後列南側（東より）



本堂内部 後列北側（東より）



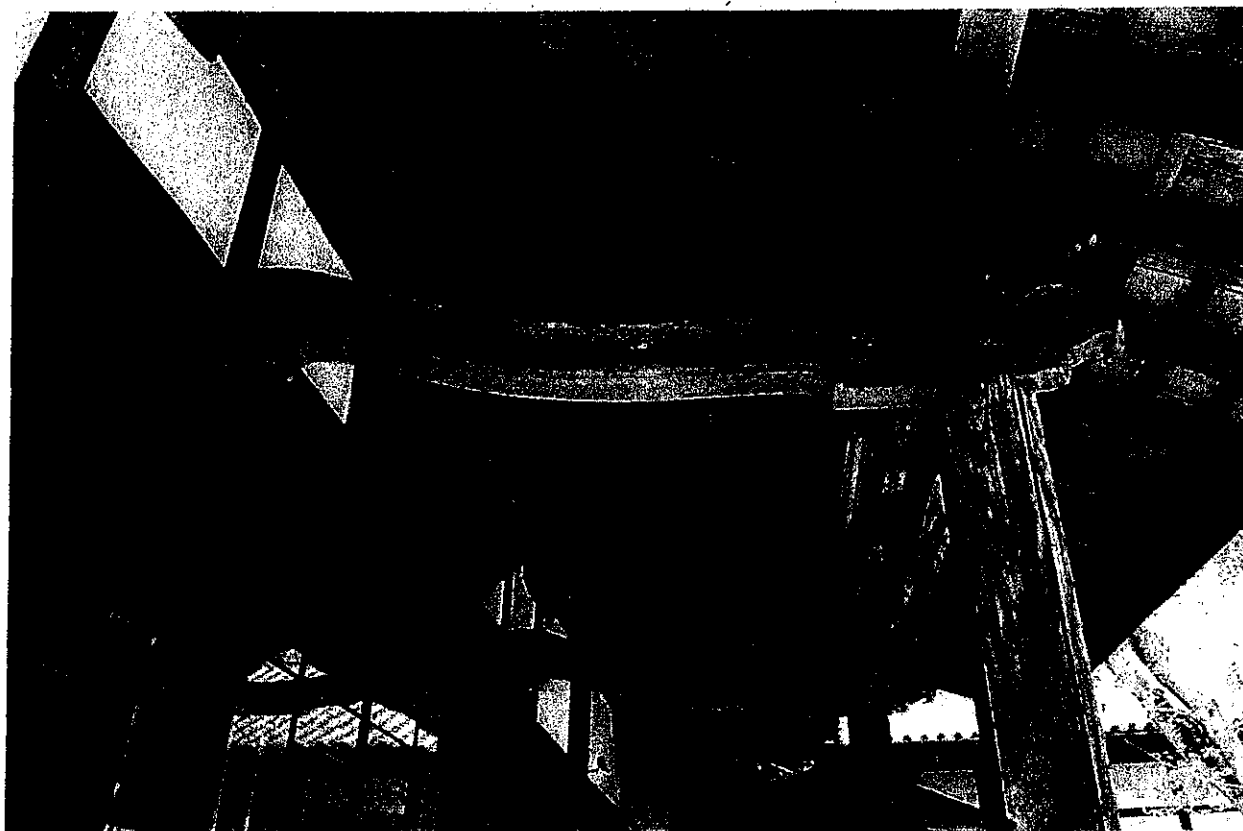
広縁向拝内側（南より）



本堂南東角軒（西より）



本堂正面 向拝（東より）



本堂正面 向拝（南より）